

# 8月末に観覧者延べ10万人超え



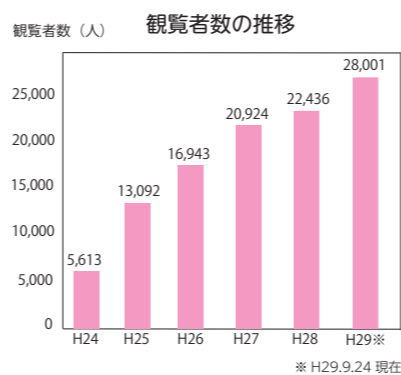
6年目を迎えた田んぼアート事業。今年はイラストレーターの湖川友謙さんがデザインした「一寸法師」のクライマックスシーンが話題を集め、観覧者数は例年より約1か月早い8月下旬に2万人を超えました。また、開始以来の観覧者数が延べ10万人を超えるなどの記録を達成することができました。岩瀬農業高校の協力による苗の育苗や測量、町民ボランティアによる田植えや稲刈りなど多くの人に支えられている田んぼアート事業について特集します。

## 認知度アップが観覧者増に

下のグラフは田んぼアートの観覧者数の推移を示したものです。

田んぼアートは、東日本大震災の翌年、平成24年から開始し、今年で6年目を迎えました。初年度は5千6百人程であった観覧者が、翌年は1万3千人を超え、昨年は2万2千人を超えるという人気ぶりでした。今年も、8月下旬に2万人

を超すというハイペースで、1月のきらきらアート終了までに3万人を超えるものと予想されています。認知度アップが観覧者増につながっています。



## INTERVIEW



田んぼアート実行委員会  
実行委員長  
和田 和久さん

### 田んぼアートで町の活性化

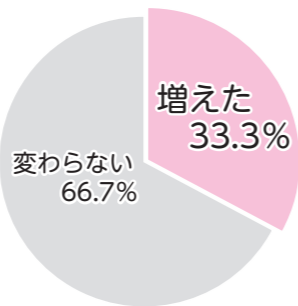
田んぼアート事業が東日本大震災の翌年から開始されてから今年で6年目、観覧者も既に2万8千人を超え、さらに8月下旬には田んぼアート事業開始以来延べ10万人達成と我が町の一大イベントとなりました。これもひとえに実行委員をはじめ、多くの皆様のご協力があればこそと深く感謝申し上げます。アートの出来も年々向上しておりますが、この事業は多くの皆さんの協力がなければ出来ないものであり、田んぼアートを通して町の活性化につながるよう頑張ります。

## グルメマップ掲載店舗 約3割が売り上げ増

田んぼアート実行委員会では、今年7月に町商工会発行のグルメマップ掲載の飲食店43店舗を対象に「田んぼ事業効果アンケート」を実施しました。

このアンケートは、田んぼアート事業の認知度と田んぼアートによる事業効果がどの程度上がっているかを尋ねたものです。全店舗が田んぼアート事業を認知・浸透していると回答しています。また、売上げについて尋ね

Q 田んぼアート実施前後で売上はどうでしたか？



たところ、約3割の店舗が売上げ増となっていると答え、中には30%増となっている店舗もありました。

「増えた」と答えた店舗では、田んぼアート事業に合わせて特設売場を設けたり、新たなメニューを作ったりと工夫が見られます。今年の観覧者数はすでに2万8千人を超えるなど、どう店舗に誘導するかが今後の商業振興の重要なカギとなっています。

## 田んぼアート事業に大きな期待

自由回答に寄せられた内容では、田んぼアートへの出店や展望デッキの設置、かかしコンテストの開催、協力飲食店の店頭へ「田んぼアート協

力店」などののぼり旗・ポスターの掲示、町内スポーツ回遊イベントの開催、積極的なPR、昨年から始めたイルミネーション「きらきらアート事業」の期間延長などの意見が寄せられました。実行委員会では、これまで田んぼカフェを週末に開催するなどのイメージアップを

図っています。さらなる工夫が求められています。田んぼアート事業は、5月の田植えから10月の稲刈りまで、稲の生長に合わせて絵柄が楽しめ、3Dアートや収穫後にはイルミネーション「きらきらアート事業」と年間を通した事業へと進化を遂げています。

## 多くの人に支えられている 田んぼアート



▲絵柄の測量は地元岩瀬農業高校生が協力 田んぼアートの出来を決める最も重要な作業である測量は、地元岩瀬農業高校生の協力をいただいています。また、苗の種まきと育苗や田植え、稲刈りなどポイントとなる作業には岩瀬農業高校の生産技術が生かされ、鏡石町の田んぼアートを支えています。



▲豊作祈願 田植え祭りに250人 今年の田植えは5月28日(日)に行われ、子供から大人まで約250人の皆さんがアートの絵柄を思い浮かべながら1本1本丁寧に植え付けました。

田植えを終えた後は、おにぎりや米粉だんご入りとん汁が配られ、口いっぱいほおばり、流れる汗を拭いていました。



▲豊作万歳 稲刈り祭り 10月9日(体育の日)には、豊作万歳 稲刈り祭りが行われる予定です。今年もまた多くの皆さんの協力をいただき、実りの秋を実感したいものです。

今年は、穂が出る夏の天候不順により結実が例年に比べると悪く例年より少ない収量になるものと予想されていますが、田んぼアート事業は、このイベントから初冬のイルミネーションへと移っていきます。